

専門業者様向け

# アイジールーフ 施工説明書 **新築用**

- ◆スーパーガルテクトフッ素
- ◆スーパーガルテクト
- ◆スーパーガルテクトC

2023年10月版

## 施工説明書のご使用にあたって

- 施工説明書は、アイジールーフを安全に正しく施工をしていただくための重要な情報を記載しています。
  - 施工説明書に記載の基本事項をご理解の上、実際の現場に即した、安全で確実な設計と施工を行っていただきますようお願い致します。
- 
- アイジールーフの保証書の発行には、施工説明書に記載している施工方法に従っていただくことが必要です。
  - 施工説明書に記載している設計基準・施工基準を満たさない納まりや施工方法は、弊社では責任を負いかねますので、元請様や工事店様のご判断とご責任の上で行っていただくようお願い致します。それらの納まりや施工方法については、弊社は免責とさせていただきます。
  - 施工説明書に掲載している納まりや施工方法は、アイジールーフの機能や性能を確保するための代表的な例です。
  - 施工説明書は、掲載していない納まりや施工方法を制限するものではありませんが、アイジールーフの機能や性能を確保できる方法を選定してください。
  - 施工説明書内で示す寸法値は、設計値です。施工においては、納まりの状況により前後することがあります。
  - 元請様と弊社が協議し、別に定めた施工説明書がある場合は、本施工説明書の定める限りではありません。
  - 施工説明書は、最新の見聞、検証により予告なく記載仕様の一部を改訂する場合があります。最新の施工説明書を参照ください。
-

# 目次

事故防止のために	1	認定関係	9
取り扱い時のお願い	2	・飛び火性能認定	9
・運搬、保管上の注意	2	・飛び火性能認定使用範囲	9
・施工上の注意	2	施工の手順	10
・その他	2	下地の確認	11
アイジールーフを美しく保つために	3	・下地造りの確認	11
・クリーニングについて	3	・唐草G50の取り付け	11
・表面材にキズが付いたとき	3	・下葺き材の施工	12
・防水について	3	本体の施工とポイント	13
・大気汚染について	3	各部の納まり	15
・安全に関する注意	3	・軒先の納まり	15
アイジールーフ適用地域一覧	4	・ケラバの納まり	16
施工に必要な工具と材料	5	・棟の納まり	23
本体規格	6	・隅棟の納まり	26
・本体形状断面図	6	・谷の納まり	33
・本体規格	6	・壁との納まり	35
・物性表	6	・換気棟の納まり	39
部材規格	7	・雪止めの納まり	47
		積算方法	48
		免責事項	50

# 事故防止のために

アイジールーフは屋根材です。  
屋根以外の部位に使用しないでください。



## 警告

死亡または重傷を負う可能性が  
想定される場合の表示です。

1. 強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。  
風にあおられる・雨や雪ですべるなどの原因で、落下事故の可能性があります。
2. 高所作業は関係法規に従ってください。事故の可能性があります。
3. 雪止めを足場にしたり、物を置いたりするなど、雪止め以外の用途には使用しないでください。破損し落下するおそれがあります。



## 注意

取り扱いをあやまると障害を負う  
危険や物的損害などの可能性が想  
定される場合の表示です。

1. アイジールーフは2.5寸以上の勾配で使用してください。  
2.5寸未満の勾配では漏水のおそれがありますので使用できません。  
・勾配と流れ長さの制限

勾配	2.5寸～3寸	3.5寸以上
流れ長さ	7m以下	20m以下

2. 取り扱いの際は、ゴム付き手袋や保護めがねなどの適切な保護具を着用してください。けがをする可能性があります。
3. 現場加工時、鋼板の切断面に生じたバリは取り除いてください。けがをする可能性があります。
4. 防水のため、施工の際は下地に下葺き材を施工し、働き幅による割り付けを行ってください。
5. アイジールーフは一般地域（最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の地域）で使用してください。すがもれのおそれがあります（P4参照）。
6. 落雪による事故を防止するため雪止めを使用してください。
7. 包装材・残材などは産業廃棄物として処分してください。
8. シーリング・タッチアップペイントなどは安全データシート（SDS）に従って正しく使用してください。
9. 電動工具など、工具の使用の際は、各工具の取扱説明書に従って正しく使用してください。

# 取り扱い時のお願い

## 運搬、保管上の注意

- ・1ケースあるいは開梱した商品を手で持つ際には、小端立てにして運んでください。
- ・車両による運搬時には、荷台に突起物や濡れ、汚れがないことを確認した上で、平積みしてください。
- ・急ブレーキなどによる荷崩れ、損傷を防ぐため、ロープをかけ、角には必ず当て板を入れてください。
- ・ロープの締め付けが強すぎると商品の破損につながるおそれがあります。過度の締め付けは避けてください。
- ・商品の保管は、雨水、湿気などの影響を受けない風通しのよい屋内の平らな場所で行ってください。
- ・屋外に保管する際は、パレットあるいは、りん木の上に合板を重ねた水平面に置き、さらに防水シートなどで覆ってください。また防水シートが風などで飛ばないようにしてください。
- ・商品が破損するおそれがありますので、次のような行為は避けてください。
  - 商品を放り投げる、または落とすこと。
  - 商品の上に人が乗る、または重量物を載せること。
  - 商品の片方をりん木やトラックのあおりなどに載せて斜めに置き、保管や運搬をすること。
  - 商品をりん木やフォークリフトのつめに直に置き、2点支えにすること。
  - 商品より小さなパレットなどを使用すること（パレットの角で商品が破損するおそれがあります）。
- ・商品を保管するときはできるだけ横置きにしてください。
- ・商品を一時的に保管する場合は、次のことに注意してください。
  - 荷上げの際の落下事故には十分に注意してください。
  - 保管する重量に見合った滑落防止策を講じてください。
  - 本体を立てかける場合は、端部が破損するおそれがありますので、本体の左側（断熱材がない方の端部）を上にご覧ください。

## 施工上の注意

「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」について防水に関する施工方法は、加入している住宅瑕疵担保責任保険法人の設計施工基準を確認してください。

- ・アイジールーフは木造下地専用です。
- ・商品が電線に接触すると感電する可能性があります。電線に触れないように注意してください。併せて事前に電力会社に依頼するなど、感電防止処置を講じてください。
- ・下地に下葺き材を施工してください（P12参照）。
- ・下葺き材の施工後に、たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。
- ・商品を施工する前に働き幅で墨出しを行い、その墨に合わせて施工してください。
- ・商品にモルタルなどが付着した場合は、速やかに除去してください。
- ・エアネイラーを使用する場合は、アイジールーフのしん材のつぶれやくぎの頭抜けがないように、事前に圧力調整を行い打ち込み深さを確認してから施工してください。留め具は、施工する工法に即した長さを選定してください。番線タイプのくぎは、施工後に番線が飛散しキズやさびの原因にもなりますので使用しないでください。
- ・ケラバ水切には、ケラバ面戸を使用してください。
- ・商品が破損するおそれがありますので、商品に乗ったり、重量物を載せたりしないでください。
- ・横ジョイント部、差し棟キャップ、換気棟は変形のおそれがありますので、上に乗ったり、重量物を置いたりしないでください。
- ・すりキズ防止のために、商品の表面を直に地面に置く、金属製足場板など硬いもので擦るなどの行為は避けてください。
- ・商品の塗装が傷みますので、表面材に切断時の切粉、火花などを当てないでください。
- ・表面材にキズが付いた場合には、純正のタッチアップペイントで補修してください。タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なすりキズのみで使用してください。
- ・くぎ打ち部や下葺き材に、打ち損じなどの穴ができた場合は、シーリング材や防水テープで防水処理をしてください。
- ・上階の屋根からの樋は必ず軒先まで通し、下階の屋根面へは排水しないでください。
- ・商品を切断した際に出る切粉は、ハケなどで必ず払ってください。
- ・アイジールーフに、銅などの異種金属からの雨水が接触すると、電食が起こる場合があります。異種金属との取り合いには注意してください。
- ・アイジールーフには必ず純正部材を使用してください。それ以外の部材では十分な性能を得られないことがあります。
- ・3寸勾配以下の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください（P14参照）。
- ・部材の留め付け間隔は455mm以下とってください。

## その他

- ・日射による熱の影響で、朝・夕の温度変化時に、表面鋼板の伸縮により、かん合部などからまれに音が発生する場合があります。
- ・小屋裏にテレビアンテナを設置している場合、金属屋根の施工でテレビの「映像が乱れる」「映らない」といった受信障害が出る可能性があります。テレビの受信状況の確認やテレビアンテナの対策作業を行ってください。

# アイジールーフを美しく保つために

---

## クリーニングについて（表面材に汚れが付着したとき）

---

- ・表面材をクリーニングする場合は、から拭きか、水または中性洗剤で洗浄してください。酸性やアルカリ性の洗剤は塗膜を傷め変色、腐食を招くおそれがあります。洗浄する際は、温水（ぬるま湯程度）を使用すると汚れが落ちやすい傾向があります。中性洗剤で洗浄した後は、水でよく洗い流してください。
- ・洗浄用具としては、硬いブラシ、研磨性のあるスポンジなどは使用しないでください。表面材にキズが付き腐食を招くおそれがあります。

## 表面材にキズが付いたとき

---

タッチアップペイント（純正品）による補修について

注意事項

- ・タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なすりキズのみを使用してください。本体や部材の変形を伴うキズや、広範囲にわたる塗装には使用しないでください。
- ・タッチアップペイントは常乾タイプの塗料で、本体、部材と塗料タイプが異なります。このため、色調や艶などに差異が発生し、補修箇所が目立つことがあります。また、ちぢみ塗装品は表面意匠の特性より、補修後も同じような意匠を再現することはできません。あらかじめご了承ください。
- ・タッチアップペイントは使用前に容器を振り十分に攪拌してください。容器を振る目安は、カタカタという音が聞こえてから30秒以上です。
- ・事前に商品の端材や目立たない箇所で試し塗りをを行い、色調を確認してください。
- ・遮熱性フッ素樹脂塗装の商品（スーパーガルテクトフッ素など）に、タッチアップペイントを使用する場合は目荒しが必要です。補修するすりキズ部分には、目荒しを行ってください。目荒しを行わない場合、タッチアップペイントと表面の塗膜に密着性が得られませんので注意してください。
- ・補修の前に表面の汚れ、ほこり、水分などがある場合は布などで拭き取ってください。
- ・補修する場合は、タッチアップペイントを薄く重ね塗りしてください。補修部分は目立ちますので、できるだけ丁寧な取扱いをお願いします。
- ・塗装場所の気温が著しく低い場合（5℃以下）や、雨や露などにより被塗面が濡れる場合や、換気が十分でなく結露が考えられる場合は、補修を避けてください。
- ・火気には十分に注意してください。
- ・塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気やガスなどを吸い込まないようにしてください。
- ・取り扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクや送気マスク、保護めがねや保護手袋・前掛けなどを着用してください。
- ・火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を使用してください。
- ・目に入った時は多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- ・皮膚に付着した場合は、多量の石けん水で洗い落とし、痛みや外観に変化が認められる場合はできるだけ早く医師の診察を受けてください。
- ・蒸気やガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合は、風通しのよいところで安静にし、必要に応じてできるだけ早く医師の診察を受けてください。

## 防水について

---

- ・シーリング材は2～3年を目安に点検してください。  
経年変化による劣化で切れが生じた場合には、補修することにより漏水を未然に防いでください。

## 大気汚染について

---

- ・大気中には表面基材の腐食の原因となるさまざまな要因が含まれています。自動車の排気ガス、工場からの排煙、海岸地帯の海塩粒子、凍結防止剤など、多種多様な要因があります。近年、環境公害のひとつとして酸性雨問題があります。酸性度の強い水分との接触や付着水分の蒸発、濃縮により表面塗膜の耐久性の低下やさびの発生に至る場合があります。

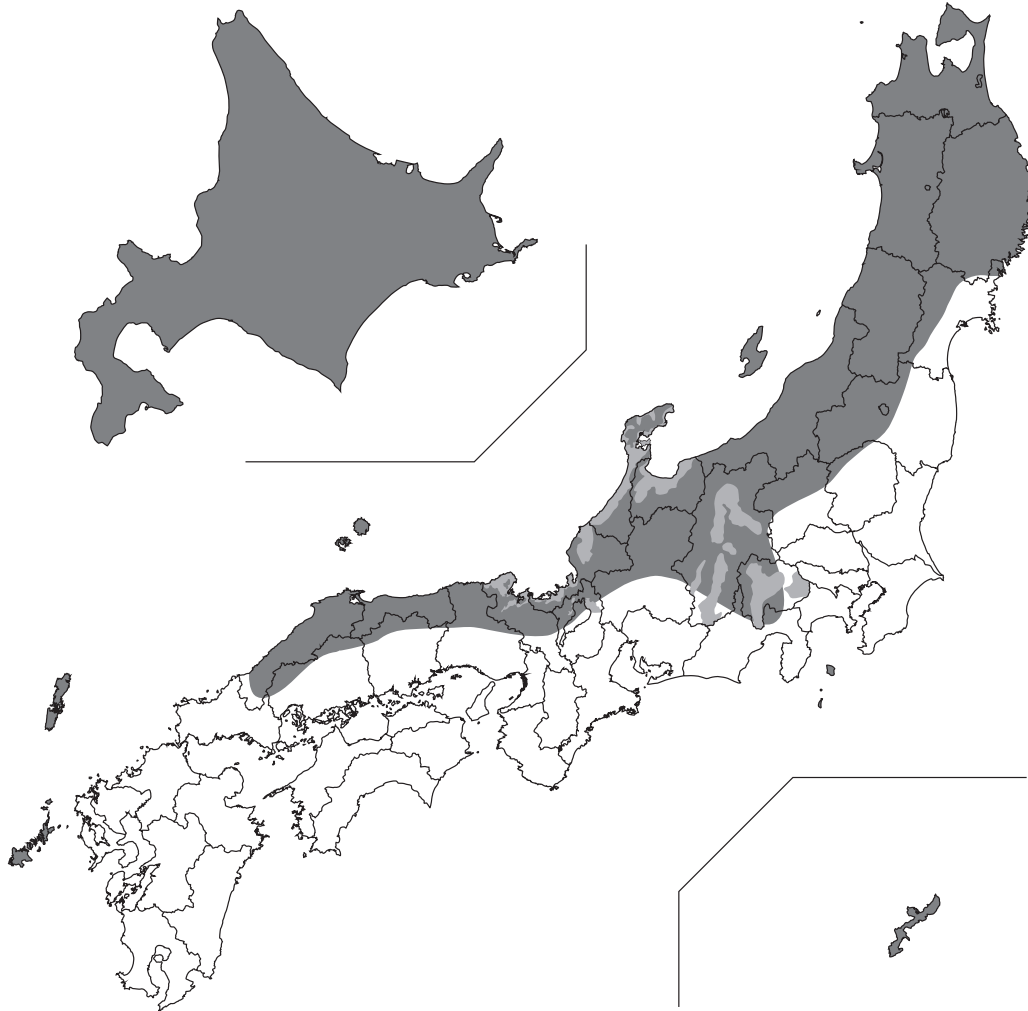
## 安全に関する注意

---

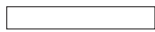


- ・お施主様ご自身で高所作業を伴う点検やお手入れは絶対に行わないでください。落下事故やけがの原因となります。
- ・点検は、屋根を目視で確認できる範囲にとどめてください。高所作業の場合は、専門業者に相談してください。
- ・再塗装などの補修工事はお施主様ご自身では絶対に行わないでください。専門業者に相談してください。
- ・雨などで濡れた屋根の上には絶対に乗らないでください。落下事故やけがの原因となります。
- ・洗剤を使用しての洗浄の際は、周辺の生物に影響がないよう、十分に注意してください。

# アイジールーフ適用地域一覧

スーパーガルテクトは、最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の一般地域で使用可能です。  
 積雪量の多い地域では、すが漏れの恐れがあるため施工不可としています。  
 準一般地域では別途施工基準を設けておりますので、詳しくは最寄りの営業所へお問い合わせください。



この全国積雪分布図は、気象庁編集による一般財団法人気象業務支援センターが発行した「メッシュ気候値2000」をもとにアイジー工業株が独自に作成したものです。

適用区分	年間平均最深積雪量
一般地域 	標準仕様にて施工可
準一般地域 	積雪地区対応仕様にて施工可（最寄りの営業所へお問い合わせください）
施工不可地域 	おおむね30cm以上の積雪地域、沖縄県及び離島

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

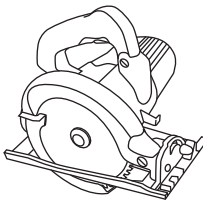
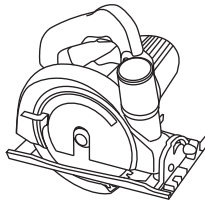
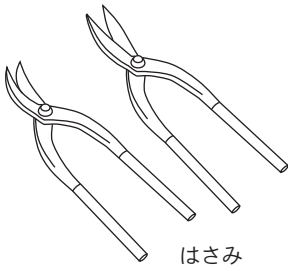

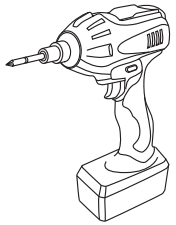


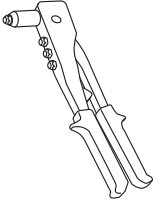

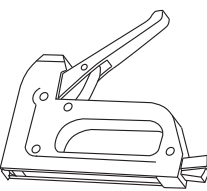
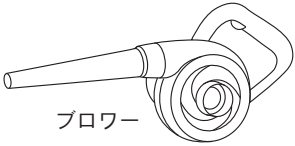

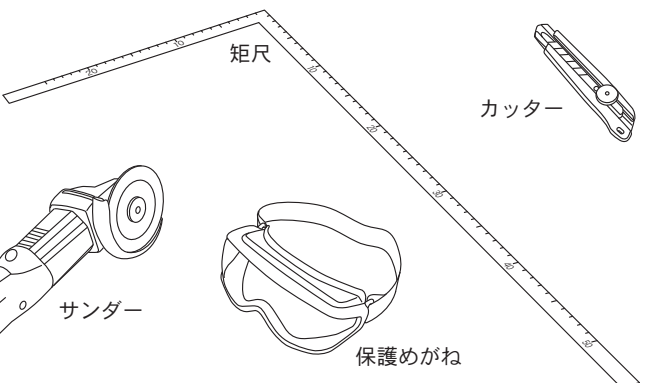
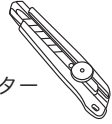
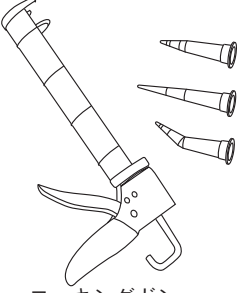
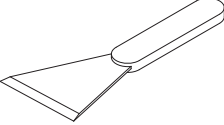
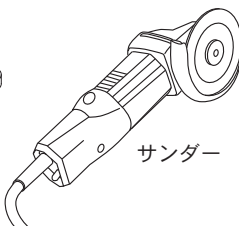


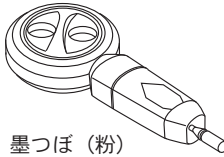
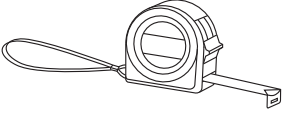
本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

# 施工に必要な工具と材料

## 工具類

切断工具類		折り曲げ工具類	
 電動丸のこ	 防塵丸のこ	 はさみ	 つかみ
取り付け工具類			
 インパクトドライバー	 ハンマー	 釘抜き	 リベッター
		 釘しめ	 タッカー
その他の工具類			
 ブロワー	 はけ	 矩尺	 カッター
 コーキングガン	 スクレーパー	 サンダー	 保護めがね
	 水糸	 墨つぼ (粉)	 スケール

## 留め具

名称		材質	サイズ
くぎ		ステンレスまたは鉄 (亜鉛めっき)	長さ50mm以上
木ビス (木ねじ)	市販品	ステンレスまたは鉄 (亜鉛めっき)	長さ50mm以上
	専用品	ルーフ用ビス4×55	ステンレス (ディズゴ処理) 長さ55mm

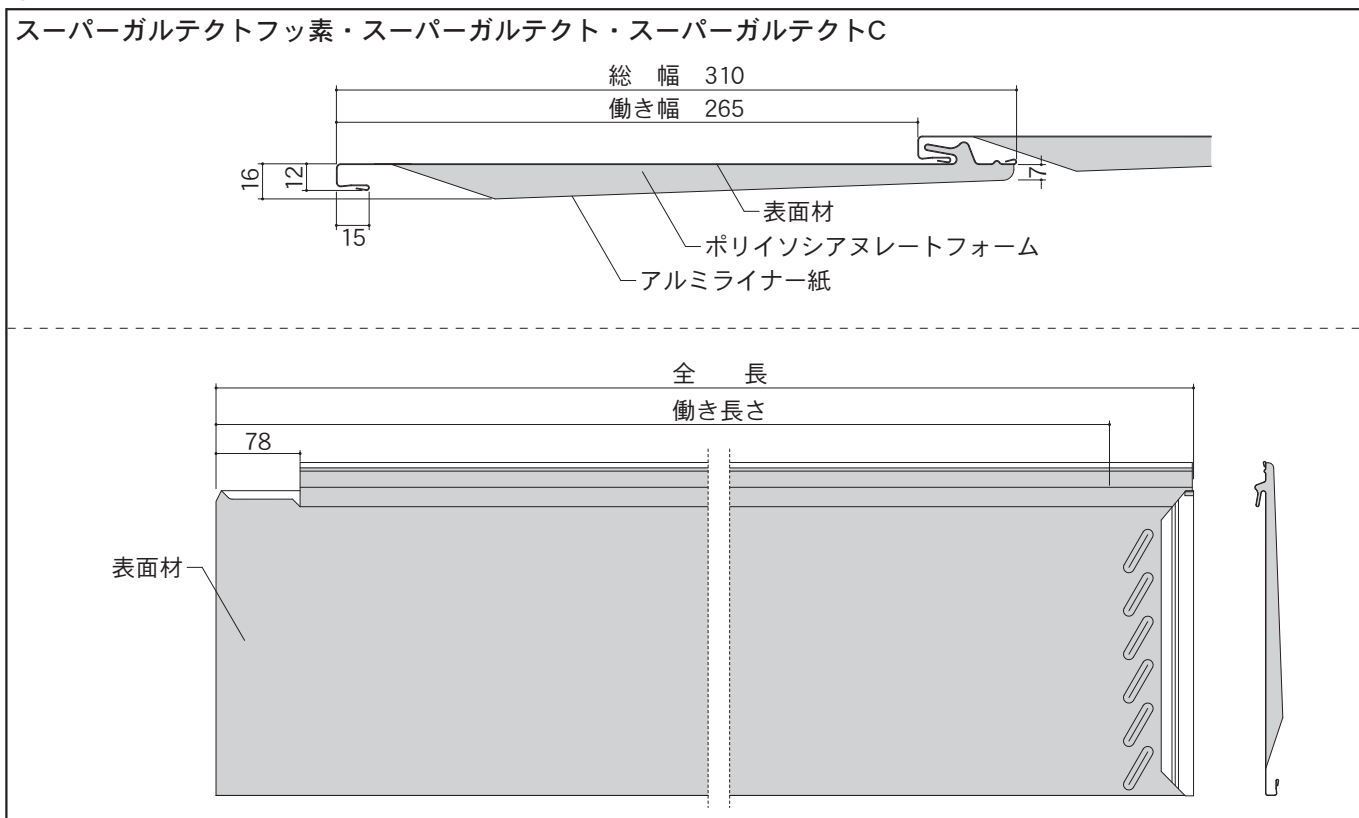
- ⚠ 切断工具、穴あけ工具、ブロワーなどを使用する場合は必要に応じて保護眼鏡などの保護具を使用してください。  
 ○上記の工具は代表的な工具であり、施工状況に合わせて他の工具が必要になる場合があります。  
 ○屋根の上では、丸のこを使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、近隣への飛散を防止し、屋根についた切粉は完全に除去してください。



# 本体規格

## 本体形状断面図

単位：mm



## 本体規格

商品名	働き長さ	全長	入り数面積	入り数	働き幅	総幅	厚さ	重量
スーパーガルテクトフッ素 スーパーガルテクト	2,960mm	3,038mm	4.71m <sup>2</sup>	6枚	265mm	310mm	最大16mm	5.0kg/m <sup>2</sup>
スーパーガルテクトC	1,820mm	1,898mm	2.90m <sup>2</sup>					

商品名	表面材
スーパーガルテクトフッ素	エンボス加工遮熱性フッ素樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35)
スーパーガルテクト	エンボス加工遮熱性ポリエステル樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35)
スーパーガルテクトC	

超高耐久ガルバは、2%マグネシウム-55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板です。

## 物性表

項目	性能値	試験方法	試験体仕様
しん材熱伝導率	0.032W/mK (0.028kcal/mh°C)	JIS A 1412-2	
熱貫流率	1.43W/m <sup>2</sup> K (1.22kcal/m <sup>2</sup> h°C)	JIS A 1420	下地条件：アスファルトルーフィング940 構造用合板12mm たる木 (間隔：455mm)
水密性	平均圧力 750Pa (76kgf/m <sup>2</sup> )	JIS A 1414	下地条件：アスファルトルーフィング940 構造用合板12mm たる木 (間隔：455mm)
耐風圧性	正圧：4,000Pa(407kgf/m <sup>2</sup> )以上 負圧 <sup>※1</sup> ：5,500Pa(560kgf/m <sup>2</sup> )	空気圧による 等分布荷重	本体留め具 <sup>※2</sup> ：ルーフ用ビス4×55 下地条件 <sup>※3</sup> ：構造用合板12mm たる木 (間隔：455mm)
加工性	2T (塗膜剥離しないこと)	-	
耐食性	1,000時間	JIS Z 2371 塩水噴霧試験	

■上記物性データは性能参考値です。環境によって異なった数値になる場合があります。

※1 耐風圧データの負圧の数値は破壊値です。設計に際しては、十分な安全率を見込んでください。

※2 くぎでの性能値は、別途お問合せください。

※3 防水のため、下葺き材を施工してください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法

# 部材規格

単位：mm

商品名	唐草G50	ケラバ水切	ケラバ面戸	ケラバ水切エンド	
商品図					
梱包単位	L=2,727 5本/包	L=2,727 5本/包	材質：発泡EPDM 100個/箱	50個/箱	
商品名	ケラバキャップD(左)	ケラバ下地D	ケラバキャップD(右)	棟・隅棟包みD	棟巴
商品図					
梱包単位	10個/箱	L=2,727 5本/包	10個/箱	L=2,727 5本/包	スーパーガルテクト・ スーパーガルテクトCのみ 15個/箱
商品名	剣先	差し棟キャップD3寸	差し棟下地D	差し棟キャップD5寸	谷樋D(II)
商品図					
梱包単位	2.5寸～4.5寸勾配用 5本/箱	2.5寸～4.5寸勾配用 20個/箱	L=2,727 5本/包	5寸～6寸勾配用 20個/箱	L=2,727 1本/包
商品名	壁押えD(II)	C型捨板	L型捨板	ジョイント下地 <sup>(注2)</sup>	雪止めGT(III)ハネタイプ
商品図					
梱包単位	L=2,727 5本/包	L=2,727 4本/包	L=2,727 5本/包	30個/箱	材質：ステンレス(アクリル塗装) t=1.2 50個/箱

部材規格

単位：mm

商品名	換気棟	換気棟用エンドキャップ	換気棟L	片流れ用棟包み <sup>(注1)</sup>	片流れ用換気棟
商品図	 <p>下地・捨水切同梱 2.5寸～10寸勾配用</p>	 <p>併用</p> <p>2.5寸～10寸勾配用</p>	 <p>併用</p> <p>下地・捨水切同梱 2.5寸～10寸勾配用</p>	 <p>2.5寸～6寸勾配用 L=2,150</p>	 <p>片流れ換気用水切 捨水切・固定ビス同梱 2.5寸～6寸勾配用 L=2,150</p>
梱包単位	1セット/箱	2個/箱	1セット/箱	5本/包	1セット/箱
商品名	片流れ換気用水切 <sup>(注1)</sup>	段付面戸D	平型面戸	10MコイルD	防水テープ
商品図	 <p>L=2,150</p>	 <p>材質：発泡EPDM</p>	 <p>両面テープ</p> <p>材質：発泡EPDM L=2,000</p>	 <p>W=914 L=10m</p>	 <p>材質：ブチルゴム系粘着材 両面接着タイプ L=20m</p>
梱包単位	5本/包	50個/箱	50本/箱	1本/箱	—
商品名	防水テープD	ルーフ用ビス 4×55	タッチアップペイント	エコシーリング	エコシーリングホルダー
商品図	 <p>材質：ブチルゴム系粘着材 片面接着タイプ L=20m</p>	 <p>材質：ステンレス(ディスコ処理)</p>	 <p>内容量=15ml</p>	 <p>別売りホルダーが無いと 使用できません。</p> <p>材質：変成シリコーン 内容量=320ml</p>	
梱包単位	—	300本/箱	—	10本/箱	2本/箱

・スーパーガルテクトフッ素用部材の材質は遮熱性フッ素樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35 mm) です。  
 ・スーパーガルテクト、スーパーガルテクトC用部材の材質は遮熱性ポリエステル樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35 mm) です。  
 ・超高耐久ガルバは、2%マグネシウム-55%アルミニウム-垂鉛合金めっき鋼板です。  
 ・タッチアップペイントと商品は塗料タイプが異なりますので、色や艶などに多少の差異が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。  
 ・スーパーガルテクトフッ素にタッチアップペイントを使用する場合は目荒らしが必要です。目荒らしの方法に関しては、P3を参照してください。  
 (注1)・片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつないで施工する場合は、片流れ用棟包みと片流れ換気用水切を併用して施工してください。  
 (注2)・3寸勾配以下の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください (P14参照)。

事故防止のため  
 取り扱い時の  
 アイジールーフを  
 美しく保つために  
 アイジールーフ  
 適用地域一覧  
 施工に必要な  
 工具と材料  
 本体規格  
 部材規格  
 認定関係  
 施工の手順  
 下地の確認  
 本体の施工と  
 各部の納まり  
 積算方法

# 認定関係

## 飛び火性能認定 DR-1977 (1) (屋根勾配：2.5～27.5寸適応)

	材料	寸法
屋根材	スーパーガルテクトフッ素 スーパーガルテクト スーパーガルテクトC	—
目地部部材	ジョイント下地 (有りまたは無し)	—
防水材	アスファルトルーフィング940 改質アスファルトルーフィング 粘着層付き改質アスファルトルーフィング	—
野地板	構造用合板 素地パーティクルボード 構造用パネル (OSB)	厚さ12mm以上
たる木	木製下地	45mm×60mm以上 (間隔500mm以下)

## 飛び火性能認定使用範囲

### ■ 木造下地

用途	地域	延床面積 (S)m <sup>2</sup> 階数	S ≤ 100	100 < S ≤ 500	500 < S ≤ 1000	1000 < S ≤ 1500	1500 < S ≤ 3000	3000 < S	
			共同住宅		防火	1,2階建	30分準耐火構造	30分耐火構造	
準防火	3階建	30分準耐火構造			30分耐火構造				
	1,2階建	飛び火性能(法62条)			30分耐火構造				
22条区域	3階建	30分準耐火構造					30分耐火構造		
	1,2階建	飛び火性能(法22・25条)			30分準耐火構造(2階床面積が300m <sup>2</sup> 以上の場合)				
戸建住宅		防火			1,2階建	30分準耐火構造	30分耐火構造		
		準防火	3階建	準防火3階建仕様		30分準耐火構造		30分耐火構造	
			1,2階建	飛び火性能(法62条)		30分準耐火構造		30分耐火構造	
		22条区域	3階建	飛び火性能(法22・25条)					30分耐火構造
			1,2階建	飛び火性能(法22・25条)					

スーパーガルテクトが使用可能な範囲です。

□ 飛び火性能認定を取得している構造とする。

■ 飛び火性能に、その屋内側の部分または、直下の天井部分に防火被覆として強化せっこうボード(厚さ12mm以上)と防火被覆の取り合い部分に当て木を設け、当該建築物の内部への炎の侵入を有効に防止することができる構造とする(建設省告示1358号)

■ 飛び火性能に、その屋内側の部分または、直下の天井部分に防火被覆として強化せっこうボード2枚以上(合計厚さ27mm以上)と防火被覆の取り合い部分に当て木を設け、当該建築物の内部への炎の侵入を有効に防止することができる構造とする(建設省告示1399号)

- ・高さ16mを超えるもの(車庫、倉庫は13mを超えるもの)、または階数が4以上の木造建築は、地域に関わらず30分準耐火構造以上の性能が求められます(法21条)。

(注) 飛び火性能認定は構造認定ですので、認定を取得している仕様にて施工してください。

スーパーガルテクトの飛び火性能認定は、木造下地での仕様です。鉄骨下地では使用できません。

以上は、屋根のみに関する建築基準法の大まかな制限を表しています。

自治体の条例などで建築基準法より厳しい制限が設けられている場合がありますので、計画の際は前もって管轄の行政庁にご確認ください。

# 施工の手順

## 下地の確認

### 下地造りの確認

- ・たる木 45×60mm以上、間隔455mm以下
- ・野地板 構造用合板 特類2級（厚さ12mm）など
- ・受木の施工



### 唐草G50の取り付け

- ・捨て水切（現場加工）を施工してください。
- ・唐草G50を取り付ける前に、墨出しを行ってください。
- ・墨出しに合わせて、唐草G50を取り付けてください。取り合いは、各部の納まり（P15～参照）と合わせて確認してください。



### 下葺き材の施工

- ・下葺き材は、全面に施工してください。勾配によって使用する下葺き材が異なりますので、施工前に下葺き材の種類を確認してください。詳しくは、P12を参照してください。



### 墨出し

- ・たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。
- ・本体の働き幅で墨出しを行ってください。



## 各部の納まり

- ・P15～参照をしてください。
- ・各部の施工及び納め方は、各部の納まりを確認し、適切に行ってください。



## 検査（補修）クリーニング

- ・表面材のキズの補修や、クリーニングについては、**取り扱い時のお願い、アイジールーフを美しく保つために**を確認し適切に行ってください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具と材料

本体規格

部材規格

認定関係

施工の手順

下地の確認

本体の施工とポイント

各部の納まり

積算方法